

コードやプラグなど配線器具の事故が多発しています

こんな使い方していませんか？



コードを束ねて使わないで！

事例

電気ファンヒーターから異臭がしてコード付近から発火し、カーペットが焦げた。(平成22年2月 千葉県)

原因

電源プラグを抜く際に、コードを引っ張るなどしていたため、芯線が断線して発火に至ったものです。



コードを踏み付けしないで！

事例

電気があんかが焦げて、布団や毛布なども焼けた。(平成22年10月 大阪府)

原因

コードのつけ根を折り曲げたりしていたため、芯線が断線して発火に至ったものです。



素人修理をしないで！

事例

テーブルタップから発火し、床を焼いた。(平成22年2月 富山県)

原因

テーブルタップと、接続していた水槽用ヒーターの差し込みプラグの間に、ほこりや水分が付いたままにしていたためトラッキング現象が発生したものです。

トラッキング現象



ほこりや水分が付いたままにしないで！

製品事故に関する情報は以下のアドレスでご覧いただけます。

【NITE(ナイト)】

事故情報や社告・リコール情報等の検索のほか、注意喚起チラシなどのダウンロードができます。

<http://www.jiko.nite.go.jp/>

【経済産業省】

新着情報、リコール情報、製品安全にかかわる政策情報などをご覧いただけます。

http://www.meti.go.jp/product_safety/index.html

製品事故等が発生したら…

消費者庁、お近くの消費生活センターにご連絡ください。



経済産業省商務流通グループ製品安全課製品事故対策室
TEL 03-3501-1707



NITE・製品安全センター製品安全調査課
TEL 06-6942-1113



2011年11月

ついでに 思いがけぬ事故に

取扱説明書をよく読んで正しく使用しましょう



事故 ナイト いいね

今冬は節電志向により燃焼式暖房器具の使用機会が増えることが予想されます 特に以下のような事故に注意しましょう

石油ストーブの事故は多くの原因で発生しています

給油時の漏れた灯油で火災

事例
住宅から出火し、1人が死亡して2人がやけどを負った。(平成22年1月 富山県)

原因
石油ストーブの火を消さずにカートリッジタンクに給油したところ、カートリッジタンクのふた(ネジ式)の締め方が不完全だったため灯油がこぼれ、ストーブの火に引火し、火災に至ったものです。



一酸化炭素中毒で死亡

事例
就寝中、一酸化炭素中毒で1人が死亡した。(平成21年12月 福井県)

原因
石油ストーブを閉め切った寝室で長時間使用したため、酸素が不足して不完全燃焼がおきて一酸化炭素中毒になったものです。



ものが燃えるには、たくさんの空気が必要です。そのため、換気をしないと新鮮な空気が不足して不完全燃焼がおきて一酸化炭素が発生し、一酸化炭素中毒になります。一酸化炭素は、無色・無臭のため気がつきにくく中毒になると死亡することもあります。

洗濯物が落下して火災

事例
住宅から出火して全焼した。(平成21年2月 埼玉県)

原因
石油ストーブの上に干していた洗濯物が落下して火がついたものです。



間違えてガソリンを給油して火災

事例
住宅から出火して全焼し、顔や手にやけどを負った。(平成21年3月 千葉県)

原因
ガソリンを灯油と間違えて石油ストーブに給油したため、異常燃焼を起こして火災に至ったものです。



ガスファンヒーターから出火

事例
ガスファンヒーターの電源スイッチを入れたら火がつき、機器が焼けた。(平成22年10月 埼玉県)

原因
専用のガスコードではなく、不適正なゴム管を使用したためガスが漏れ、接続口からガスがもれ、点火した際に引火したものです。(再現実験)



! ガス栓とガス機器の接続は適正な接続器具を使用してください。使っていないガス栓は専用のガス栓キャップをかぶせてください。接続は赤い線まで差し込んでゴム管止めで抜けないようにしてください。ソケットにごみなどがはさまっていないことを確認してください。

石油ファンヒーターの前に置いたスプレー缶が爆発

事例
石油ファンヒーターを使用中、前に置いていたスプレー缶が爆発して火がつき、消火の際にやけどを負った。(平成23年1月 大阪府)

原因
スプレー缶(殺虫剤)が「ファンヒーターの温風で過熱され、内圧が上昇して破裂し、噴射剤の可燃性ガスにファンヒーターの火が引火したものです。」



噴射剤に可燃性ガスを使用しているスプレー缶をファンヒーターの前に置いたところ、熱で膨張して噴き出したガスが引火しました。(再現実験)

! カセットボンベやスプレー缶などをストーブ、ガスこんろなど熱源の近くに置かないでください。過熱されると内圧が上昇して破裂・爆発し、噴き出した可燃性ガスが引火して危険です。

電気ストーブにふとんがふれて火災

事例
住宅から出火して全焼し、1人が死亡した。(平成21年1月 千葉県)

原因
電気ストーブをつけたまま就寝したため、ふとんがヒーターに触れて火がつき、出火したものです。

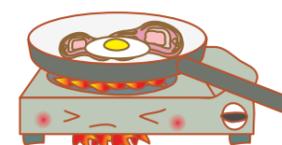


! 寝るときは必ず電源スイッチを切りましょう。また、そばにカーテンなどの燃えやすいものを置かないでください。洗濯物を乾かしたことが原因による火災事故も多く発生しています。乾燥して軽くなった洗濯物が上昇気流で外れてストーブに落下する危険性があります。

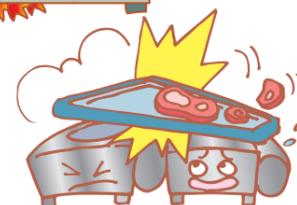
調理中にカセットボンベが爆発

事例
カセットこんろで調理中、こんろのカセットボンベが爆発して、2人がやけどを負った。(平成21年11月 福井県)

原因
五徳を収納したまま使用していたため、フライパンの底とコンロが接触状態になって加熱され、こんろ全体が過熱してボンベが破裂したものです。



! カセットボンベを装着する際は、正しく装着してください。五徳が裏返しになっていないかを確認してください。カセットこんろは2台並べて使用しないでください。また、こんろを覆うような大きな鍋などは使用しないでください。



電子レンジ加熱式ゆたんぽが破裂してやけど

事例
電子レンジ加熱式のゆたんぽを加熱していたら、ゆたんぽが膨らんできたためあわてて電子レンジの扉を開けると、ゆたんぽが破裂して内容物が飛び散り、顔面にやけどを負った。(平成21年3月 熊本県)

原因
オート加熱機能を禁止する表示がありましたが、誤って使用したため、規定時間を超えて加熱され、袋の内圧が高まって破損し、内容物が飛び散ったものです。



加熱時間を超えたために大きくふくらんだゆたんぽ(再現実験)

! 取り扱い表示の使用方法やレンジ出力及び加熱時間を必ず守ってください。袋が膨張、あるいは内容物が漏れ出た場合は、電子レンジのスイッチを切り、十分に時間をおいて冷めたことを確認してから扉を開けてください。ガスこんろや電磁調理器で直接加熱するタイプの金属製ゆたんぽは、必ず口金(キャップ)を外してから、加熱してください。内圧が上昇して破裂します

ゆたんぽで低温やけど

事例
ゆたんぽで低温やけどを負った。(平成21年12月 京都府)

原因
長時間、ゆたんぽを使っていたため低温やけどに至ったものです。

! 「低温やけど」は、ゆたんぽやこたつなどのほか、使いすてのカイロなどでも発生します。同じ部位を長時間温めないでください。また、違和感や熱いと感じたら直ちに使用を中止してください。厚手のタオルや専用のカバーなどで包んでも低温やけどを負うことがあります。ゆたんぽは就寝前にふとんの中に入れて、温まったら出して、電気あんかはスイッチを切ってください。

多発

社告・リコール中のハロゲンヒーター等で事故



左の3種は社告・リコール該当製品の一部です

社告・リコール中のハロゲンヒーターやカーボンヒーターで事故が多発しています。また、ガスストーブでも社告・リコール品が多くあります。お使いの製品をNITEホームページで確認してください。

<http://www.nite.go.jp/jiko/leaflet/leaflet.html>